

京師帝國大學法科大學

經濟論叢

第三卷 第四號

故法學博士井上密君肖像并哀辭

論說

對露輸出代金決濟方法

國防稅ノ當否(三、完)

代表紙幣ト獨立紙幣(二)

課稅ト獨占價格(一)

戰後ノ人口增加政策(三)

保險本質論(二、完)

雜錄

重子 在外正貨問題ヲ河津博士ニ答フ

公營造物ニ關スル美濃部織田松本三博士ノ所論ヲ讀ミテ東京市電車舊乘車券問題ニ及ブ(一)

支那ニ於テ人口過剩論ノ梗概

移民政策ニ對シテ邦人同化問題

村落共產體ノ發達

らうれー『ミール』學說ノ研究(三、完)

過去ニ於ケル和蘭ノ植民の活動

神惟孝ノ事ニ就キ 鈴木券太郎氏ニ答フ

漬物机上觀

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戶 正雄

法學士 作田 莊一

文學士 高田 保馬

法學士 米田庄太郎

法學士 小島昌太郎

法學博士 神戶 正雄

法學博士 福田 德三

法學士 鈴木券太郎

法學士 山本美越乃

法學士 本庄榮治郎

商學士 大塚金之助

山本美越乃

瀧本 誠一

法學士 財部 靜治

(載 轉 禁)

大正五年十月一日發行

保險本質論 (二完)

小島 昌 太 郎

第二 保險ノ本質

現時ノ經濟組織ニ於ケル私經濟ノ收入ハ、其私經濟ノ運營ニ與ヅカル人々ノ經濟能力ト其私經濟ノ有スル生産財産トニヨリテ制限セラルルモノナルガ故ニ、其支出可能額ニハ一定ノ限度アルコト、前段ニ於テ説明シタルガ如シ。然ルニ經濟生活ニ於テハ、豫見シ得ザル事件ニヨリテ此支出可能額ヲ超エテ支出ヲナスノ必要ヲ生ズルコトアリ。又、各私經濟ハ企業タルト家計タルトヲ問ハズ、其規模ニ應シテ常ニ一定ノ支出ヲナスノ必要アルモノナルガ、其支出ノ源タル收入ハ不慮ノ事件ニヨリテ減滅スルノ虞アルモノナリ。故ニ各人ノ生活ニハ常ニ經濟上ノ不安アリ。保險ハ、此經濟上ノ不安ヲ幾分ニテモ除却センガ爲メニ、考案セラレタル經濟準備ノ仕組ナリ。

一 保險ハ特定ノ事件ニ關聯シテ生ズル經濟上ノ不安ヲ除却スルコトヲ目的トス

經濟上ノ不安ト云フコトハ種々ノ形ニ於テ現ハレドモ、歸スル所、金錢上ノ必要アリテ此必要ヲ充スコト能ハズト云フ状態ガ偶然ニ生ズルノ虞アルヲ云フ。故ニ金錢上ノ必要、即チ支出ヲナスノ必要ガ偶然ニ生ズルコトモ、將タ、之ヲ支出シ得ザルニ至ル事情、即チ收入ノ減滅ガ偶然ニ生ズルコトモ經濟上ノ不安トナル。詳言セバ、支出可能額以上ニ、偶然ナル事件ニヨリテ金錢上

ノ必要ガ生ズルコトモ經濟上ノ不安トナリ、又一定ノ金錢上ノ必要アル場合ニ、收入ガ偶然ナル事件ニヨリテ減減スルコトモ經濟上ノ不安トナル。

經濟上ノ不安ヲ惹起ス原因タル事件ハ、偶然性ヲ有スル事件ニシテ、之ニ財產上ノ事件ト人事上ノ事件トアリ。財產上ノ事件ト云フハ財產ニ損害ヲ及ボス事件ニシテ、此事件ニヨリテ生産財産又ハ享樂財産ガ損害セラレタルトキハ、同様ノ生産財産又ハ享樂財産ヲ作り若シクハ買入ルル爲メニ支出ヲナスノ必要生ズベク、又生産財産ノ場合ニアリテハ其損害ハ之ト同時ニ收入ノ減減ヲ惹起スベシ。故ニ財產上ノ事件ハ此點ニ於テ經濟上ノ不安ノ原因トナル。又、人事上ノ事件ト云フハ疾病・災害・癱疾・老衰・死亡・失職・人營等ヲ云ヒ、是等ノ事件ハ或ハ經濟能力ヲ喪失セシメ又ハ經濟活動ヲ妨ゲテ收入ノ減減ヲ生ジ、或ハ支出ノ増加ヲ來スガ故ニ、又經濟上ノ不安ノ原因トナル。

經濟上ノ不安ハ先ツ其原因ヲ除クコトニヨリテ之ヲ除却スルコトヲ得ベシ。即チ其原因タル事件ニ對シテ豫防手段ヲ講ジ、又ハ其事件ノ發生ニ際シテ鎮壓手段ヲ盡スコトニヨリテ之ヲ除却スルコトヲ得ベシ。此豫防及鎮壓ノ技術的手段ハ科學ノ發達ニヨリテ大ニ進歩シタリト雖モ、此技術的手段ノミニヨリテハ、未タ完全ニ經濟上ノ不安ヲ除クコトヲ得ズ。此ニ於テ事件ソノモノニ對スル積極的ナル技術的手段ノ外ニ、消極的ニ、事件ノ結果ニ對シ、適當ノ處置ヲ施シテ、事件ガ發生スルモ、其經濟上ノ結果ニ於テハ、恰モ之ガ發生セザリシト同一トナスノ方法ヲ講ズルコトヲ要ス。即チ技術的手段ノ外ニ經濟的手段ヲ設クルノ必要アル所以ナリ。

抑モ、經濟上ノ不安ト云フコトハ、前述ノ如ク、金錢上ノ必要アリテ此必要ヲ充スコト能ハズト云フ狀態ガ、偶然ナル事件ニ關聯シテ生ズルノ虞アルコトナリ。略言スレバ、金錢上ノ缺乏ヲ來スノ虞アルコトナリ。サレバ何時金錢上ノ必要ガ生ズルモ之ヲ充スコトヲ得ベク、又何時收入ガ減減スルモ金錢上ノ必要ヲ充スニ事缺カザルノ準備ヲ有スルトキハ、假令、收入支出ニ影響ヲ及ボスベキ事件ガ不意ニ發生スルコトアリトスルモ金錢上ノ缺乏ヲ來スノ虞ナキガ故ニ、又經濟上ノ不安ナシ。故ニ、經濟上ノ不安ハ、金錢上ノ必要ヲ充シ得ベキ準備、即チ準備財産ヲ作成スルコトニヨリテ之ヲ免ルコトヲ得。

然リト雖モ、右ノ目的ニ役立チ得ベキ準備財産ハ、概シテ一個ノ私經濟ガ單獨ニテ作成スルコト能ハザルモノナリ。蓋シ單純貯蓄ハ、偶然ナル事件ニ關聯シテ生ズル金錢上ノ必要ヲ充スノ準備トシテハ不完全不經濟ニシテ、又之ニヨリテハ此不安ヲ充分ニ除却スルコト能ハザレバナリ。¹⁾故ニ斯クノ如キ準備財産ハ、必ズ多數經濟主體ノ共力ニヨリテ之ヲ作成セザルベカラズ。即チ、多數ノ經濟主體ガ相集リテ一ノ團體ヲ作り、其各自ノ收入支出ニ影響ヲ及ボスベキ特定ノ事件ノ發生蓋然率ヲ測定シ、之ニ基キテ各々一定ノ醵金ヲナシ、此醵金ヲ集積シテ共通ノ準備財産ヲ作り、團員ニ豫定ノ事件ガ發生シタル場合ニ、此共通準備財産ヨリ一定ノ給付ヲ與フルノ仕組ヲ設クルトキハ、此團體ノ加入者ハ、何時豫定ノ事件ニヨリテ金錢上ノ必要ガ生ズルモ之ヲ充スコトヲ得ベク、又何時豫定ノ事件ニヨリテ收入ガ減減スルモ、金錢上ノ必要ヲ充スニ事缺カザルベシ。故ニ此仕組ニヨルトキハ、此團體ノ加入者ハ特定ノ事件ガ發生スルモ、其經濟上ノ結果ニ於テハ

(1) 經濟論叢 第三卷第一號 九一頁以下參照

恰モ其事件ガ發生セザリシト異ルコトナク、即チ其事件ニ關聯スル所ノ經濟上ノ不安ヲ免ルコトヲ得ルナリ。此任組ニヨリテ共通準備財産ヲ作ルコト是レ即チ此ニ述ベントスル保險ナリ。

保險ハ、右ニ述フルガ如ク、其加入者ノ收入支出ニ影響ヲ及ボスベキ特定事件ノ蓋然率ヲ基礎トシテ準備財産ヲ作り、何時加入者ニ其事件ガ發生シテ金錢上ノ必要ガ生ズルモ、其必要金額ヲ支給シ得ルノ準備ヲナスモノナルガ故ニ、加入者ハ保險ニ加入スルコトニヨリテ、特定事件ニ關聯シテ生ズル金錢上ノ必要ヲ充足ン得ルコトヲ確保セラレ、從ツテ其事件ヨリ受クル所ノ經濟上ノ不安ヲ免ルコトヲ得ルナリ。故ニ、保險ハ特定事件ニ關聯シテ生ズル所ノ經濟上ノ不安ヲ除却スルコトヲ目的トスルモノナリト云フコトヲ得ベク、又保險ハ未來ノ特定事件ニ關聯シテ生ズル金錢上ノ必要ヲ充スコトヲ目的トスルモノナリト云フコトヲ得ベシ。

本篇ノ序論ニ述ベタルガ如ク、最近ノ保險學說ハ、保險ヲ以テ偶發的ナル經濟欲望ヲ充足スルコトヲ目的トスルモノナリト説明ス。但シ、經濟欲望 Wirtschaftliches Bedürfnis ナル語ハ「こび」ノ用フル所ニシテ、²⁾「まあねす」³⁾「ゑみんぐはうす」⁴⁾等ハ財産上ノ欲望 Vermögensbedarf ト云ハもるでんはうあるハ單ニ欲望(又ハ需要) Bedarf ト云フ、⁵⁾「るせ」ハ所得ニ對スル欲望 Einkommensbedarf ト云ヘリ。然レドモ、財産上ノ欲望又ハ所得ニ對スル欲望ト云フ言葉ハ、保險ノ本質ヲ説明スルニハ稍偏狹ニシテ適當ナラズ、又單ニ欲望(又ハ需要)ト云フハ餘リニ廣汎ニシテ之又適當ナラズ、寧ロこびノ用例ニ從ヒ、經濟欲望ト云フヲ以テ適當ナリトセン。故ニ吾人モ、曩ニ「保險學說ノ發展」⁷⁾及ビ「保險ト偶然性」⁸⁾ヲ論ズルニ當リテハ、經濟欲望ト云フ語ヲ用キタリ。然レドモ、之ヲ

(2) Gobbi, Die Theorie der Versicherung, begründet auf den Begriff der eventuellen Bedürfnisse. (Baumgartners Zeitschr. f. V.-Recht und -Wissenschaft. Bd. II. u. III. 1896-7.)

(3) Manes, Versicherungswesen. (Leipzig, 1913). S. 1.

(4) Berichte Denkschriften und Verhandlungen des Fünften Internationalen Kongresses für Versicherungswissenschaft, Bd. I. S. 768.

再考スルニ、經濟欲望ト云フハ經濟財ヲ獲得セントスル欲望ノ謂ニシテ、之ハ金錢上ノ必要ト云フ語ヲ以テ言ヒ代フルモ毫モ差支ナク、且ツ保險ヲ説明スルニハ此語ヲ用フル方反ツテ便宜ナルガ故ニ、吾人ハ經濟欲望ト云フ語ノ代リニ、金錢上ノ必要ト云フ語ヲ使用セント欲ス。蓋シ、貨幣經濟ノ發達シタル今日ニアリテハ、如何ナル經濟財モ貨幣ニヨリテ之ヲ獲得スルコトヲ得ベク、又經濟財ヲ獲得スルニハ、實際、貨幣(又ハ貨幣ノ代用物)ヲ用フルコト多キガ故ニ、經濟財ヲ獲得セントスル欲望ハ、取モ直サズ、金錢上ノ必要ヲ促スモノナレバナリ。

却説、私經濟ハ保險ニ加入スルコトニヨリテ經濟上ノ不安ヲ免ルコトヲ得ベシト雖モ、一ノ保險ニ加入スルコトニヨリテハ、只或特定ノ事件ニ關聯スル所ノ經濟上ノ不安ヲ免レ得ルニ過キズシテ、更ニ他ノ事件ニ關聯スル所ノ經濟上ノ不安ヲ免レンガ爲メニハ、他ノ保險ニ加入セザルベカラズ、又私經濟ハ種々ノ保險ヲ利用スルコトニヨリテ、其經濟上ノ不安ヲ、或範圍内ニ於テ免ルコトヲ得ベシト雖モ、一切ノ經濟上ノ不安ヲ保險ニヨリテ免レ得ルニアラズ。蓋シ、保險ハ後ニ説明スルガ如ク、⁽⁵⁾社會ノ大多數ノ人ガ遭遇スルノ可能アル事件ニ對シテハ成立スルコトヲ得レドモ、只其少數者ニ限り發生スル事件ニ對シテハ成立スルコトヲ得ザルモノニシテ、且ツ又社會ノ大多數ノ人ガ同時ニ遭遇スルガ如キ事件ニ對シテモ成立スルコト能ハザルモノナルガ故ニ、經濟準備トシテ保險ト云フ仕組ガ成立スルニハ自ラ一定ノ限界アレバナリ。

二 保險ハ共通準備財産ヲ作ル仕組ナリ

經濟上ノ不安ヲ除却スルガ爲メニハ準備財産ヲ作成セザルベカラズ。準備財産ニ二種アリ。其一

(5) Moldenhauer, Das Versicherungswesen. I. (Leipzig, 1911) S. 10.
 (6) Hülse, Versicherung und Wirtschaft. (Conrad, Jahrb. f. N. u. S., März, 1915) S. 312.
 (7) 經濟論叢 第一卷第六號 及ヒ 第二卷第二號
 (8) 同上 第二卷第四號
 (9) 本誌本號 八五頁 八一頁

ハ單獨準備財産ニシテ、其二ハ共通準備財産ナリ。單獨準備財産トハ一ノ個別經濟ノミノ金錢上ノ必要ヲ充ス目的ヲ以テ作ラレ、其個別經濟ニ專屬スル財産ナリ。共通準備財産トハ多數ノ個別經濟ノ中ノ何レニ金錢上ノ必要ガ生ズルモ、其必要ヲ共通のニ充ス目的ヲ以テ作ラレタル財産ニシテ彼等ニ共屬スル所ノモノナリ。故ニ共通準備財産ト云フハ多數ノ人ニ共通ナル準備財産ノ義ニシテ、多數ノ財ニ共通ナルノ義ニアラズ。保險ニ於テ作ル所ノ準備財産ハ、此共通準備財産ニシテ、單獨準備財産ニアラズ。然ルニ彼ノ單純貯蓄ノ方法ニヨリテ作ル所ノモノハ、單獨準備財産ニシテ、共通準備財産ニアラズ。之レ保險ト單純貯蓄ト相異ル一ノ要點ナリ。又彼ノ所謂自家保險 Self Insurance; Selbstversicherung ナルモノハ、多數ノ經濟客體(財)ニ共通ナル準備財産ナレドモ一ノ經濟主體ニ專屬スルモノニシテ、多數ノ經濟主體ニ共通ナルモノニアザルガ故ニ、保險ノ名ヲ有スレドモ實ハ保險ニアラズ。其本質上、單純貯蓄、準備積立金等ト同シク、單獨準備財産ヲ作成スル方法ナリ。

共通準備財産ノ成立ニハ、三個ノ條件ヲ必要トス。(イ)多數經濟主體ノ結合、(ロ)相互主義ノ存在、(ハ)目的トスル事件ハ多數人ニ對シテ同時ニ發生スルモノニアザルコト、是ナリ。保險ハ共通準備財産ヲ作成スルモノナルガ故ニ、又此三個ノ條件ヲ必要トス。

(イ) 共通準備財産ハ一團ノ多數經濟主體ノ共力ニヨリテ作成セララルモノナルガ故ニ、之ガ成立ニハ多數ノ經濟主體ノ結合ヲ要スルコト言フ迄モナシ。

(ロ) 相互主義ト云フハ、自己ノ爲メニスルト共ニ又他人ノ爲メニモナスノ思想ナリ。共通準備財

(10) 參照 Manes, a. a. O., S. 2; Moldenhauer, a. a. O., S. 8; Wörner, Allgemeine Versicherungslehre, (Leipzig, 1910) S. 23; H.Brämer u. K. Brämer, Das Versicherungswesen, (Leipzig 1894.) S. 2; Willett, The Economic Theory of Risk & Insurance (New York 1901) p. 106; 反對說 - Wagner, Versicherungswesen (Schönbergs Handbuch d. p. O., Tübingen, 1898 2 Bd. 2). S. 359-361; Gobbi, a. a. O., Bd. III. S. 258.

産ヲ作ルトキハ、特定ノ事件ニ遭遇シタル團員ハ何人ト雖モ、其事件ニ關聯シテ必要トナリタル金額ヲ之ニヨリテ支辨シ得ルト共ニ、又特定ノ事件ニ遭遇セザルモノハ、（11） 釀金ヲナスノミニシテ、其釀金ハ結局他人ノ用ニ歸スルコトトナル。故ニ釀金者タルモノハ自己ガ特定ノ事件ニ遭遇セザルトキハ其釀金ハ全ク他人ノ用ニ歸スルコトヲ甘んジテ之ヲナサザルベカラズ、即チ相互主義ニヨリテ釀金ヲナサザルベカラズ。保險モ共通準備財産ヲ作ル仕組ナルガ故ニ、保險加入者ハ有意識又ハ無意識ニ此主義ニヨリテ釀金ヲナスナリ。（12） 故ニ保險ハ相互主義 *Das Prinzip der Gegenseitigkeit* ヲ基礎トシテ成立スルモノナリト云ハレ、又保險ニ於テハ萬人ハ一人ノ爲メニ、一人ハ萬人ノ爲メニ *Alle für einen, einer für alle* 盡スノ主義ガ最モ好ク貫徹セラルト稱セラルル。（13）

ノナルコトハ、相互會社組織ナルト、株式會社組織ナルト、將タ個人企業ナルトニヨリテ異ルコトナシ。

保險ガ相互主義ヲ基礎トシテ成立スルモノ

然レトモ、之ヲ半面ヨリ見ルニ、保險ニ於テハ、少額ノ釀金ヲナシタルモノモ、特定ノ事件ニ遭遇スルトキハ、共通準備財産ノ中ヨリ、巨額ノ給付ヲ受クルコトトナルガ故ニ、釀金者ハ射倖的ノ思想ヲ以テ釀金ヲナスモノナリト云ヒ得ザルニアラズ。故ニ此點ニ於テ、保險ニハ射倖的要素アリト稱セラレ。（14） 又保險契約ハ射倖契約ニ屬スト説明セラル。（15）

（ハ）最後ニ、準備財産ヲ作成スルノ目的タル事件ガ、多數ノ人ニ對シテ一時ニ發生スルモノナランニハ、彼等ハ同時ニ金錢上ノ必要ヲ生ズルコトトナルガ故ニ、カクテハ共通準備財産ヲ作リテ之ニ備フルモ特ニ其負擔ヲ輕減スルコトナク、寧ロ單獨準備財産ヲ作リテ之ニ備フルノ簡便ナルニ若カザルナリ。故ニ此場合ニハ多數人ヲ結合スルノ必要アル共通準備財産ハ成立スルコトヲ得

(11) Manes, a. a. O., S. 2. 參照
 (12) Manes, a. a. O., S. 59. Willett, *The Economic Theory of Risk & Insurance*, p. 123. Wagner, a. a. O., S. 360. Wörner, a. a. O., S. 16.
 (13) Manes, a. a. O., S. 14.; Wörner, a. a. O., S. 16.
 (14) Hülsse, a. a. O., S. 315. 參照

ズ。從ツテ保險モ亦成立スルコトヲ得ズ。

但シ、保險ニアリテハ、國權ノ強制アルトキハ此ノ(ロ)ハノ要件ハ重要ナラザルモノトナル。例ヘバ、強制労働保險ハ相互的思想又ハ射倖心ガ殆ド存在セザル場合ニモ成立スルコトヲ得ベク、又強制農業保險ハ農業上ノ被害(雹霜害)ハ一般的ノモノナルニカカハラズ成立スルコトヲ得ルガ如シ。

三 保險ハ偶然ヲ利用シテ偶然ヲ除ク方法ニヨリテ共通準備財産ヲ作ル

保險ハ右ニ述ブルガ如ク、多數ノ經濟主體ガ相寄りテ、共通準備財産ヲ作り、未來ノ特定事件ニ關聯シテ金錢上ノ必要ノ生ズル場合ニ、之ニヨリテ其必要ヲ充スコトヲ目的トスルモノナルガ故ニ、保險ガ成立スルニハ彼等ノ中心トナリテ萬般ノ事務ヲ管掌スル者ナカルベカラズ、之即チ保險者ナリ。保險者ハ多數ノ經濟主體ヲ集合シテ保險團體ヲ作り。加入者タル各經濟主體ヨリ釐金ヲ徴收シ、加入者又ハ加入者ノ庇護スル者ニ一定ノ金錢上ノ必要ガ生ジタル場合ニ、一定ノ給付ヲ保險金トシテ支拂フノ役目ヲ司ル¹⁵⁾。カクテ、保險ニ於テハ保險者ト加入者ト對立スルコトナルヲ以テ、二者ノ間ニ當然、法律關係ヲ生ジ、保險者ト加入者ト一切ノ關係ハ此法律關係ニ於テ規定セラルルコトトナル。從ツテ、如何ナル場合ニ保險金ヲ受領スルカト云フコトモ、亦勿論此法律關係ニ於テ規定セラル。加入者ハ、言フ迄モナク豫想シタル金錢上ノ必要ガ現實ニ生ジタル場合ニ、保險金ヲ受領スルコトヲ欲スルモノナレドモ、法律關係ニ於テハ、單ニ加入者ニ一定ノ金錢上ノ必要ガ生ジタル場合ニ保險金ノ支拂ヲナスト云フガ如キ、曖昧ナル規定ヲ設クルコト能ハズ。別ニ、當事者間ニ爭ヲ生ズル恐ナキ方法ニヨリテ、保險金ノ支拂ヲナスベキ場合ヲ定メ

(15) Hülse, a. a. O., S. 316, Ehrenberg, Versicherungsrecht. (Leipzig 1893) S. 72. Derselbe, Begriff (V.-lexikon.) S. 209. Hupka, Der Begriff des Versicherungsvertrags (Goldschmidt, Zeitschr. f. H. u. K. 66 Bd.) S. 582.

(16) 經濟上ノ意義ニ於ケル保險者ノ地位ニ就テハ Wörner, a. a. O., S. 26 參照

ザルベカラズ。カクテ加入者ニ金錢上ノ必要ヲ生ゼシムル事情ガ、火災、海難等ノ如ク、何ゾレノ時ニ發生シタルカ何人ニモ明瞭ナル事件ナラバ、此事件ノ發生シタル場合ニ保險金ヲ支拂フト定ムルコト適當ナレドモ、其事情ガ老衰ト云フガ如キ事件ニシテ、何ゾレノ時ニ生ジタルカ不明瞭ナルモノナラバ、之ヲ以テ保險金ノ支拂ヲ決定スル事件トナスコト能ハズ。故ニ斯クノ如キ事件ニ關シテハ他ノ標準ニコリテ、凡ソ其事件ガ發生スベシト推定セラルル時點、即チ例ヘバ、凡ソ其人ガ老衰スルナラムト思ハルル時期ノ中ノ一定日時ノ到來ヲ以テ、保險金ヲ支拂フト定メザルベカラズ。カクノ如ク、保險者ト加入者トノ法律關係ニ於テ保險金ノ支拂ヲナスベキ場合トシテ規定セラレタル事件又ハ日時ヲ保險事件 *Versicherungsfall* ト云フ。

保險者ト加入者トノ法律關係ニ於テハ、更ニ、加入者ノ齎出スベキ齎金即チ保險料ハ、如何ナル時及ヒ如何ナル方法ニヨリテ支拂フベキカラ定メサルベカラズ。今日ノ保險ニ於テハ、保險料ハ原則トシテ前拂ニシテ、加入者ハ保險團體ニ加入スルト同時ニ、保險料支拂ノ義務ヲ現實ニ負擔スルガ故ニ、保險料支拂方法ガ一時拂ナラバ、加入ト同時ニ全部ノ保險料ヲ支拂フベク、數回拂ナラバ加入ノ時ニ第一回ノ保險料ヲ支拂ヒ、餘ハ繼續シテ保險料期間毎ニ之ヲ支拂フノ義務ヲ負擔スルコトトナル。而シテ保險料ガ數回拂ナルトキハ、又如何ナル事件ノ起ル迄、保險料支拂ノ義務ガ繼續スベキカラ定メザルベカラズ、換言スレバ保險料支拂義務ヲ終了スル事件ヲ定メザルベカラズ。

保險者ハ各加入者ヨリ徴收シタル保險料ヲ以テ、保險金ノ支拂ニ充ツベキモノナリ。故ニ保險者ハ其保險團體ヨリ徴收集積シ得ル所ノ保險料(純)ノ總額ガ恰モ保險金トシテ實際支拂フベキ金

類ノ總計ト同一トナル方針ニヨリテ、共通準備財産ヲ作成ス。而シテ、此方針ニヨリテ共通準備財産ヲ作成スルニハ、先ツ一定ノ保險金額ニ對シテハ幾許ノ保險料ヲ徵收スベキカヲ決定セザルベカラズ、換言スレバ、一般的ニ保險金額ニ對スル保險料ノ割合ヲ決定セザルベカラズ。此割合ヲ保險料率ト云フ。保險料率ノ算定ニ當リ計算ノ基礎トナルモノハ、(一)保險事件發生ノ蓋然率、(二)保險料ガ數回拂ナルトキハ、保險料支拂ノ繼續義務ノ終了ヲ決定スル事件ノ蓋然率、及ビ、(三)保險金ガ年金拂ナルトキハ年金ノ終了ヲ決定スル事件ノ蓋然率等ナリ。是等ノ事件ノ蓋然率ハ、經驗ト推理トニヨリテ測定セラルルモノニシテ、現今ノ進歩シタル保險ニアリテハ、統計ト蓋然率論 Wahrscheinlichkeitsrechnung トニヨリテ測定セラル。而シテ或事件ノ蓋然率ガ、測定セラレタルトキハ、其事件ハ一個人ニトリテハ偶然性ヲ有スレトモ、不特定ノ多數人ニ對シテハ偶然性ヲ失フコトトナルガ故ニ、保險者ヨリ之レヲ見レバ、保險料率算定ノ基礎トナル事件ハ偶然性ヲ有セズシテ確定性ヲ有スルモノトナル。故ニ此方法ニヨリテ算定セラレタル保險料率ヲ標準トシテ、具體的ノ場合ニ於ケル保險料額即チ加入者ノ釀出スベキ釀金額ヲ算定シ、之ヲ徵收積立テテ共通準備財産即チ保險準備金ヲ作ルトキハ、加入者ニ約定ノ事件ガ發生シタル各場合ニ、保險金ヲ支拂ヒテ過不足ナキコトヲ得ルナリ。但シ此ニ述アル所ハ專ラ純保險料ニ關スル事柄ナリ、加入者ハ此外保險團體ノ經費ヲ分擔セザルベカラズ。更

ニ之ヲ加入者ヨリ見レバ、約定ノ事件ガ發生スル場合ニハ確實ニ保險金ノ給付ヲ受クルコトヲ得ルガ故ニ、保險加入ニヨリテ其事件ニ關聯スル所ノ經濟上ノ不安ヲ免ルコトヲ得ベク、又實際其事件ノ發生シタル場合ニハ、受領シタル保險金ニヨリテ金錢上ノ必要ヲ確實ニ充スコトヲ得ルナ

リ。

保險ハ、右ニ述ブルガ如ク、事件ノ蓋然率ヲ基礎トシテ準備財産ヲ作ルモノナルガ故ニ、蓋然率ノ測定シ得ザル事件ニ就イテハ、保險ハ成立スルコトヲ得ズ。又事件ノ蓋然率ハ不特定ノ多數人ニ當筈メテ真ナルモノニシテ、少數人ニ付キテハ適用セザルモノナルガ故ニ、保險ヲ有效ニ實行スルニハ蓋然率ヲ當筈メテ真ヲ得ルニ近キダケノ多數人ヲ集合セザルベカラズ。

斯クノ如ク、保險ニ於テハ共通準備財産ヲ作成スルニ當リ其目標タル事件ノ蓋然率ヲ測定シ、此蓋然率ヲ當筈メテ真ヲ得ルニ近キダケ(又ハソレ以上)ノ多數人ヲ集合スルガ故ニ、一人ニトリテハ偶然性ヲ有スル事件モ、保險團體全體ニトリテハ其偶然性ヲ失フコトトナル。而シテ保險團體ガソレダケノ多數人ヲ集合スルコトヲ得ルハ、其事件ガ各自一人ニトリテ偶然性ヲ有スルニ由ルナリ。故ニ保險ハ偶然ヲ利用シテ偶然ヲ除ク方法ニヨリテ共通準備財産ヲ作ルモノナリト云フコトヲ得¹⁸⁾。

四 保險ト射倖行爲

保險者ハ、右ニ述ブルガ如ク、保險金ノ支拂及ヒ保險料ノ受領ニ影響ヲ及ボスベキ事件ノ蓋然率ヲ測定シ、之ニ基キテ釀金ヲ徵收スルガ故ニ、全體ノ保險關係ニ於テハ給付ノ總額ト反對給付ノ總額トハ一致スベキモノナリ。然レドモ、之ヲ一個ノ保險關係ニ就テ見レバ、給付ノ金額ト反對給付ノ金額トハ原則トシテ一致スルモノニアラズ。即チ、加入者ノ側ヨリ見レバ、或ハ彼ハ保險料ヲ支拂フノミニシテ何等ノ給付ヲ受ケザルコトアリ、或ハ保險料ニ比シテ甚タ巨額ナル給付ヲ

(18) Hülsse, a. a. O., S. 320. 參照、

受クルコトアリ、又或ハ其支拂ヒタル保險料ノ總額ヨリモ少額ナル給付ヲ受クルコトアリ。故ニ一ノ保險關係ニ於ケル給付ト反對給付トノ價值關係ハ必ず常ニ不確定ナリ。¹⁹⁾然レドモ、此價值關係ガ不確定性ヲ有スルコトハ保險ノ一ノ特徴ナレドモ、之ヲ以テ其唯一ノ特徴トナスコトヲ得ズ。蓋シ、射倖契約ニ於テハ一般ニ其ノ給付ト反對給付トノ價值關係ニ不確定性存在スレバナリ。

然ラバ、保險契約ト他ノ射倖契約例ヘバ賭博富籤トハ、何ニヨリ辨別スベキカ。通説ハ被保險利益ナルモノノ有無ヲ以テ之ヲ區別セントス。然レドモ、此說ニヨレバ損害保險ト他ノ射倖行爲トノ區別ヲ明ニスルコトヲ得ズ。

又、まあねすハ、保險ハ財産上ノ欲望ヲ充足スルコトヲ目的トスレドモ、賭博ハ利得ヲ獲ルコトヲ目的トスト云ヘリ。²⁰⁾乍併、賭博富籤モ財産上ノ欲望ヲ充足スルコトヲ目的トスルモノナリト云ヒ得ザルニアラズ。ふぶかハ、此區別ハ當事者ノ意思ニヨリテ辨別スベキモノニシテ、保險ハ不確定ナル未來ニ對シテ經濟上ノ安護ヲ得ントスルノ動機ヨリ之ニ加入スルモノナレドモ、賭博富籤ハ然ラズト云ヒ、²¹⁾ふゆるせモ當事者ノ意思ニ重キヲ置キ、保險ハ眞面目ナル行爲ナレドモ、賭博富籤ハ不眞面目ナル行爲ナリト云ヘリ。²²⁾保險ニ加入スルノ意思ト、賭博富籤ヲナスノ意思トハ同一ニアラザルコト勿論ナリ。然レドモ、當事者ノ意思ニヨリテナス區別ハ適當ナラズ。客觀的ノ標準ニヨリテ區別シ得ザレバ、第三者ノ地位ニ立テテ之ヲ判定スルニ由ナケレバナリ、吾人ハ、保險ト賭博富籤トノ區別ハ、保險ハ加入者全員ニトリテ、其何人ヨリ見ルモ、準備財産ヲ作ル仕組ナレトモ、賭博富籤ニアリテハ決シテ然ラズト云フヲ以テ足レリト信ズ。

(19) 經濟論叢 第二卷第四號「保險ト偶然性」五七七頁以下參照

(20) Manes, a. a. O., S. 14.

(21) Hupka, a. a. O., S. 567ff.

(22) Hülsse, a. a. O., S. 317.

五 保險ハ有償ナリ

保險ニ於テ作ル所ノ共通準備財産ハ、加入者ガ保險料トシテ、各々一定ノ率ニ從ヒテ、醸出シタルモノヲ積立テテ作ルモノナルコトハ既ニ述ベタリ。即チ保險ニアリテハ、醸金ハ必要ニシテ缺クベカラズ。之レ保險ハ有償ナリト稱セラルル所以ナリ²³⁾。而シテ、醸金ハ加入者之ヲナスヲ原則トスレドモ、必ズシモ加入者ガ自ラ醸金ヲ負擔スルコトヲ要セズ。他人ガ彼ニ代リ彼ノ爲メニ全部又ハ一部ノ醸金ヲ負擔スルハ毫モ妨ゲザル所ナリ。故ニ彼ノ英獨等ノ強制勞動保險ニアリテハ、雇主ガ自己ノ雇傭スル勞動者ノ爲メニ全部若シクハ一部ノ醸金ヲ負擔スルコトアリ、又國家モ其一部ノ負擔ヲナスコトアレドモ、之ガ爲メニ其保險タル性質ガ妨ゲラルルモノニアラズ。只乍併、共通準備財産ガ全部主宰者タルモノノ負擔ニテ作ラルルトキハ、之ヲ作ルガ爲メニ統計及ヒ蓋然率論ヲ應用スルモ、保險ニアラズ。彼ノ英國ノ養老年金制度ノ如キニアリテハ、老衰者ニ給付スル所ノ養老金ハ、全部國家ノ負擔ニシテ、多數人ノ醸金ニヨリテ成ルモノニアラズ。故ニ、此養老年金制度ノ會計ニ屬スル財産ハ、假ニ、之ヲ年金受領者タルベキモノノ共通準備財産ナリト看做スコトヲ得トスルモ、此制度ハ保險ニアラズ。

保險ニ於ケル醸金即チ保險料ハ、既述ノ如ク、保險者ガ支拂フベキ全體ノ保險金ノ實額ト受領スベキ全體ノ保險料ノ實額トガ同一ナル方針ニヨリテ徵收セラルルモノナリ。從テ一ノ保險者ト多數ノ加入者トノ間ニ締結セラレタル各保險關係ノ間ニハ連帶ノ關係アリテ、一ノ加入者ニ生ジタル金錢上ノ必要ハ、全加入者ノ醸金ニヨリテ支辨セラル。故ニ保險ニアリテハ、負擔ガ保險

(23) Manes, a. a. O., S. 2; Ehrenberg, a. a. O., S. 16.

者ニ轉嫁セラルルニアラズシテ、各加入者が負擔ヲ分擔スルナリ。保證契約ニアリテハ、其報酬ハ斯ノ如キ方針ニヨリテ定メラルルモノニアラズ、故ニ有償保證契約ガ例令多數ニ締結セラルルコトアルモ、此場合ニハ負擔ノ分擔アルコトナクシテ、只其轉嫁アルノミ。是レ保險ト保證ト相異ル所以ナリ。

保險ニ於ケル醜金ハ一度出デテハ、約定ノ事件ガ發生セザル限り復タ還リ來ルコトナシ。故ニ保險ハ私經濟上ノ意義ニ於ケル貯蓄ニアラズ。然レドモ此醜金ハ、各加入者ガ未來ニ於ケル金銭上ノ必要ヲ充スノ準備トナサンガ爲メニ、連合シテ積立ツルモノナルガ故ニ、保險ハ社會經濟上ノ意義ニ於ケル貯蓄ヲナスモノナリ。而シテ此醜金不還ノ原則ハ、保險料數回拂ノ保險特ニ生命保險ニ、強制貯蓄ノ性質ヲ帶バシム。

六 補 論

硝子保險ニ於テハ硝子ヲ給付シ、疾病・災害保險ニ於テハ時トシテ治療ヲ與ヘ醫藥ヲ給スルコトアリ。故ニ或ハ此點ヨリ見テ、保險ハ金銭上ノ必要ヲ充スコトヲ目的トスルモノナリト云フハ當ラズト批難スルモノナキニアラザルベシ。然レドモ、金銭上ノ必要ト云フハ必ズシモ金銭ソノモノヲ必要トスルノ義ニアラズ。金銭的價值アルモノヲ必要トスルノ義ナリ。故ニ、硝子保險・疾病・災害保險ノ如キモ、金銭上ノ必要ヲ充スコトヲ目的トスルモノナリト云ヒテ差支ナシ。

時トシテハ、保險事件ガ發生シ保險金ヲ受領スルモ、此保險金ヲ使用スベキ必要ナキコトアリ。換言スレバ何等實質上ノ必要ナクシテ保險金ヲ受領スルコトアリ。故ニ或ハ保險ハ金銭上ノ

必要ヲ充スコトヲ目的トスルモノナリト云フ説明ハ當ラズトノ批難アラム。然レドモ、保險ハ未
來ニ對スル準備ナルガ故ニ、其加入ノ當時ニ於テハ、保險事件ノ發生スル場合又ハ之ト近似ノ時
期ニ、金錢上ノ必要生ズベシト豫想シタルニ係ハラズ、其後ノ事情ノ變化ニヨリテ、保險事件ノ
發生スル場合ニハ既ニ其必要ナキニ至ルコトアルハ、己ムヲ得ザル所ナリ。殊ニ斯クノ如ク既ニ
金錢上ノ必要存セザルニ拘ハラズ、保險者ガ保險金ノ支拂ヲナスハ、保險ガ一般且ツ形式的ノ定
メヲナス法律關係ニヨリテ實行セララルルヨリ生ズル結果ナリ。故ニ偶々、何時實質上ノ必要ナク
シテ保險金ヲ受領スルコトアレバトテ、保險ハ金錢上ノ必要ヲ充スコトヲ目的トスルモノナリト
云フ説明ヲ否定スルコト能ハザルベシ。若シ果シテ、始メヨリ何等實質上ノ必要生セザルコトヲ
知リテ、保險ニ加入スルモノアラバ、之レ恰モ、昔、賭博富籤ノ目的ニ保險ヲ轉用シタルモノア
ルト同シク、彼ハ保險ノ法律關係ノ形式ヲ利用シテ、偶然ノ利得ヲ獲ンガ爲メニ保險ヲ其本來ノ
目的以外ニ轉用シタルニ過ギズ。故ニ斯クノ如キ事實ヲ以テハ、未ダ、保險ハ金錢上ノ必要ヲ充
スコトヲ目的トスルモノナリト云フ其本質ニ關スル説明ヲ覆スコト能ハザルナリ。

七 定 義

右ニ述ブル所ヲ以テ、吾人ハ大體、保險本質ノ説明ヲ終リタリ。此ニ於テ保險ノ定義ヲ示サザ
ルベカラズ。曰ク、

保險トハ收入支出ニ影響ヲ及ボスベキ事件ノ偶然ナルコトヨリ受クル所ノ經濟上ノ不安ヲ除
却センガ爲メニ、多數ノ經濟主體ガ團結シテ、此事件ノ發生蓋然率ニ從ヒ、各賺金ヲナシ、之

ヲ積立テテ共通準備財産ヲ作ルコトナリ。

此定義ハ總テノ種類ノ保險ニ對シテ適用スルコトヲ得ベシ。而シテ收入支出ニ影響ヲ及ボス事件ニハ人事上ノ事件ト財産上ノ事件トアルガ故ニ、保險ハ之ヲ類別シテ、人保險 *Personenversicherung* ト財産保險 *Vermögensversicherung* トニ分ツコトヲ得ベシ。人事上ノ事件ニヨリテ生ズル金錢上ノ必要ハ概シテ、其金額ヲ正確ニ測定スルコト能ハザルガ故ニ、人保險ハ原則トシテ定額保險 *Summenversicherung* ナレドモ、財産上ノ事件ニヨリテ生ズル金錢上ノ必要ハ、概ネ、財産ノ損害ニ基クモノニシテ、其損害額ニヨリテ必要金額ヲ測定スルコトヲ得ルガ故ニ、財産保險ハ原則トシテ損害填補保險 *Schadensersatzversicherung* ナリ。